

J E N E S Y S 2 . 0

韓国青年訪問団

訪問日程 平成 27 年 7 月 14 日 (火) ~7 月 23 日 (木)

1. プログラム概要

「JENESYS2.0」の一環として、在大韓民国日本国大使館、在釜山日本国総領事館、在済州日本国総領事館で選抜、派遣された韓国青年訪日研修団計 70 名が、7 月 14 日から 7 月 23 日までの 9 泊 10 日の日程でプログラムを行いました。

第 1 団 (35 名) 団長 : 李秉鎭 (イ・ビョンジン) 世宗大学校 国際学部 日語日文学専攻 教授

訪問地 : 東京都、千葉県、鹿児島県、大阪府

第 2 団 (35 名) 団長 朴淳希 (パク・スンヒ) 釜慶大学 文化融合研究所 前任研究員

訪問地 : 東京都、千葉県、鹿児島県、大阪府

「日本を感じる」というテーマの下、滞在中、東京都内、千葉県、鹿児島県、大阪府で学校訪問や企業訪問、文化遺産見学を行ったほか、ホームステイや文化体験を通して、日本への理解を深めていました。

2. 日程

7/14(火)

到着(成田国際空港、羽田国際空港)

7/15(水)

文化体験(能体験)、歓迎昼食会、外務省訪問、江戸東京博物館見学

7/16(木)

大学訪問(1 団:早稲田大学)2 団:文化体験(和太鼓体験)、日本学生との交流

7/17(金)

千葉県旭市視察(旭市防災資料館、津波避難タワーなど)

7/18(土)

鹿児島県へ移動、地方の魅力に関する講義、ホームステイ対面式

7/19(日)

終日ホームステイ

7/20(月)

ホームステイから再集合・離村式、企業訪問(出水酒造)、文化体験(浴衣着付け)、出水市内見学

7/21(火)

大阪へ移動、大阪企業家ミュージアム見学

7/22(水)

大学訪問(1 団:関西大学、2 団:帝塚山学院大学)、成果報告会

7/23(木)

帰国(関西国際空港)

3. 写真

| | |
|---|--|
|  |  |
| (日本語) 7月15日 文化体験(能楽)(新宿区) | (日本語) 7月15日 外務省訪問(千代田区) |
| (母国語) 7월 15일 문화체험(노가쿠)(신주쿠구) | (母国語) 7월 15일 외무성 방문(지요다구) |
|  |  |
| (日本語) 7月16日 1団 大学訪問(早稲田大学)(新宿区) | (日本語) 7月16日 2団 文化体験(和太鼓)(渋谷区) |
| (母国語) 7월 16일 1단 대학교 방문(와세다 대학)(신주쿠구) | (母国語) 7월 16일 2단 문화체험(북)(시부야구) |
|  |  |
| (日本語) 7月16日 2団 日本の大学生との交流(台東区) | (日本語) 7月17日 1・2団 東日本大震災被災地訪問(千葉県旭市) |
| (母国語) 7월 16일 2단 일본학생과의 교 | (母国語) 7월 17일 1・2단 동일본대지진 |

| | |
|---|--|
| <p>류(다이토구)</p> | <p>피해지역 방문(치바현 아사히시)</p> |
|  |  |
| <p>(日本語) 7月17日 東日本大震災被災地 訪問(千葉県旭市)</p> | <p>(日本語) 7月17日 東日本大震災被災地 訪問(千葉県旭市)</p> |
| <p>(母国語) 7월 17일 1·2단 동일본대지진 피해지역 방문(치바현 아사히시)</p> | <p>(母国語) 7월 17일 1·2단 동일본대지진 피해지역 방문(치바현 아사히시)</p> |
|  |  |
| <p>(日本語) 7月18日 ホームステイ入村式 (鹿児島県出水市)</p> | <p>(日本語) 7月18~20日 ホームステイ(鹿 児島県出水市)</p> |
| <p>(母国語) 7월 18일 홈스테이 입촌식(가 고시마현 이즈미시)</p> | <p>(母国語) 7월 18~20일 홈스테이(가고시 마현 이즈미시)</p> |
|  |  |
| <p>(日本語) 7月18~20日 ホームステイ(鹿 児島県出水市)</p> | <p>(日本語) 7月20日 ホームステイ離村式 (鹿児島県出水市)</p> |
| <p>(母国語) 7월 18~20일 홈스테이(가고시</p> | <p>(母国語) 7월 20일 홈스테이 이촌식(가</p> |

| | |
|---|--|
| <p>마현 이즈미시)</p> | <p>고시마현 이즈미시)</p> |
|  |  |
| <p>(日本語) 7月20日 武家屋敷見学 (鹿児島県出水市)</p> | <p>(日本語) 7月20日 武家屋敷見学 (鹿児島県出水市)</p> |
| <p>(母国語) 7월 20일 무가주택군 견학 (가고시마현 이즈미시)</p> | <p>(母国語) 7월 20일 무가주택군 견학 (가고시마현 이즈미시)</p> |
|  |  |
| <p>(日本語) 7月20日 文化体験 (浴衣) (鹿児島県出水市)</p> | <p>(日本語) 7月20日 文化体験 (浴衣) (鹿児島県出水市)</p> |
| <p>(母国語) 7월 20일 문화체험 (유카타) (가고시마현 이즈미시)</p> | <p>(母国語) 7월 20일 문화체험 (유카타) (가고시마현 이즈미시)</p> |
|  |  |
| <p>(日本語) 7月20日 企業訪問 (出水酒造株式会社) (鹿児島県出水市)</p> | <p>(日本語) 7月20日 企業訪問 (出水酒造株式会社) (鹿児島県出水市)</p> |
| <p>(母国語) 7월 20일 기업방문 (이즈미주조</p> | <p>(母国語) 7월 20일 기업방문 (이즈미주조</p> |

| | |
|---|--|
| <p>주식회사) (가고시마현 이즈미시)</p> | <p>주식회사) (가고시마현 이즈미시)</p> |
|  |  |
| <p>(日本語) 7月20日 箱崎八幡神社見学(鹿児島県出水市)</p> | <p>(日本語) 7月21日 文化体験(お好み焼き作り)(大阪府大阪市)</p> |
| <p>(母国語) 7월 20일 하코자키하치만신사견학 (가고시마현 이즈미시)</p> | <p>(母国語) 7월 21일 문화체험(오코노미야키 만들기)(오사카부 오사카시)</p> |
|  |  |
| <p>(日本語) 7月21日 文化体験(お好み焼き作り)(大阪府大阪市)</p> | <p>(日本語) 7月22日 1団 大学訪問(関西大学)(大阪府吹田市)</p> |
| <p>(母国語) 7월 21일 문화체험(오코노미야키 만들기)(오사카부 오사카시)</p> | <p>(母国語) 7월 22일 1단 대학교 방문(간사이대학)(오사카부 스타타시)</p> |
|  |  |
| <p>(日本語) 7月22日 1団 大学訪問(関西大学)(大阪府吹田市)</p> | <p>(日本語) 7月22日 2団 大学訪問(帝塚山学院大学)(大阪府大阪狭山市)</p> |
| <p>(母国語) 7월 22일 2단 대학교 방문(간사</p> | <p>(母国語) 7월 22일 2단 대학교 방문(데즈</p> |

| | |
|---|--|
| 이대학) (오사카부 스타타시) | 카야마가쿠인대학)(오사카부 오사카사야마시) |
|  |  |
| (日本語) 7月22日 2団 大学訪問(帝塚山学院大学)(大阪府大阪狭山市) | (日本語) 7月22日 2団 大学訪問(帝塚山学院大学)(大阪府大阪狭山市) |
| (母国語) 7월 22일 2단 대학교 방문(데즈카야마가쿠인대학)(오사카부 오사카사야마시) | (母国語) 7월 22일 2단 대학교 방문(데즈카야마가쿠인대학)(오사카부 오사카사야마시) |

4. 参加者の感想

◆印象的だったこと

○ホームステイに関して

- ・日本も稼業を継ぐのが一般的であるが、匠と呼ばれる人は他人と比較して流行に左右されず、自分の専門に小さな幸せをみつけるのだと感じた。
- ・うどんを粉からいっしょに作り、銭湯にもいっしょに行き、まるで自分が日本人になったように感じ、私の認識に変化をもたらし、日本が近いと感じた経験だった。
- ・ホームステイでは言葉は通じなかったが、言葉では表せないくらい心の中の何か温かい物が繋がったような気がする。初めて会う私に家族のように温かく接してくれた家族に頭でなく心が動き、2泊3日だったが衣・食・住をすべて体験することができた。
- ・行く前は慣れるかなと心配したが、帰るときは涙を堪えるのが大変だった。
- ・日本は個人主義的な傾向があると思っていたが、意外と涙もろく、温かい国であった。

○学校訪問に関して

- ・日本の大学生は日常の姿は自分たちと何もかわらないと感じた。
- ・学校訪問を通して、日本人の友達が韓国に対し、関心を持っていることが分かった。

○伝統、文化、自然に関して

- ・浅草など、神社では多様な神を祀っており、それに従い固有の礼儀作法がある点を認めていることが印象的で、「おみくじ」は文化に不慣れな外国人にも簡単に体験できる。
- ・必要なだけ食べて残さない日本人の食習慣やごみのリサイクルなどが印象的。
- ・韓国は古いものは捨て新しい物を追う傾向にあるが、日本は伝統を大事にし、東京スカイツリーの技術も日本の伝統建築を基礎に作ったと聞き驚いた。伝統が長く受け継がれ現在の技術と出会い

シナジー効果が生まれると分かった。

○人間性について

- ・日本人は自分の気持ちを表さないと思っていたが、ホームステイ先の祖父母はそんな考えを変えてくれ、今回の研修中に日本人の親切さと親近感を感じた。
 - ・一番印象に残っているのは、日本人の国民性である。日本に来る前は「日韓関係が良くなることは難しい」と考えていたが、日本人に会い変わった。日本人に対する距離感が近くなり、周辺に「関係ははるかに良くなる」と伝えるだろう。日本は国民性によりこれまで成長することができたし、これからも成長するだろう。
 - ・自由時間に道に迷った時、地下鉄を何本も逃しながら、一生懸命教えてくれた。道を聞いた時も一様に親切に精一杯努力して教えてくれたことに感動した。
 - ・日本人の徹底した職業気質に改めて驚いた。特に東京のバスの運転手さんが、バスの乗り降り際一度も欠くことなく毎回明るい笑顔で挨拶をしてくれ、傘を借してもらった時、自分は濡れながらも両腕に傘を持って渡してくれ感動した。
- 日本人は自身の仕事に自信とプライドを持ち、最善を尽くしている姿が印象的だった。

○その他

- ・安全に対する徹底した点検姿勢は学ぶ点である。
- ・都市がとても自然と調和しているのを訪日の間ずっと感じた。
- ・今まで普段使用していたものが、元々日本が発明したと知り、日本の優れた企業家のマインドや姿勢に感銘した。
- ・ゴミがひとつもない街、整然と列に並ぶ姿、お互いを配慮するために道は禁煙なことに感動し、韓国もまねるべきだと感じた。
- ・旭市で大きい被害を受けても落胆するのではなく、力を合わせて復旧しようとしていることがすごいと思った。

◆自国の人に伝えたいこと

- ・先進国の国民として理想的な日本人の人間性を韓国人に伝え、韓国人もそれを学び変わるように尽力し、いろいろな手段を通して感じたことをそのまま伝えたい。
- ・日本に来る前に大学の教授から日本人は客に真心を込めて、誠意をつくすサービスをすると言っていたが、実際にそれを体験したことを、細かく伝え日本のイメージをアップさせるメディアの役割をしたい。
- ・韓国と日本は、これからは近くて遠い国ではなく、必ず親しくしなければならないパートナーだと伝えたい。
- ・韓国人の認識している日本と実際に接してみた日本は大きな差があることを改めて感じた。カッコいい都市と国民性は日本の自慢であり、家族や友人に紹介したい。